

【モデルケース】(ある会社の導入事例)

- 従業員数10名以下
- ワンルームオフィス
- 出入口1カ所
- 社員全員が合鍵を所持
- 日中はオフィスに人がいるので施錠はしない、部外者も自由に出入りができる。
- 夜間は施錠を行うので部外者は出入りできないが、社員であれば夜間でも合鍵を使って出入りができる。



- ①ちょっとした用事などで時々無施錠のまま無人にな
- ②いきなり社外の人がオフィスにはいってくる
- ③営業時間外に社員が出入りしても気が付かない
- ④取引先から個人情報の管理状況を聞かれたが、どう回答して良いのか分からない
- ⑤入退室管理システムに興味あるが、価格が高すぎて手が出ない

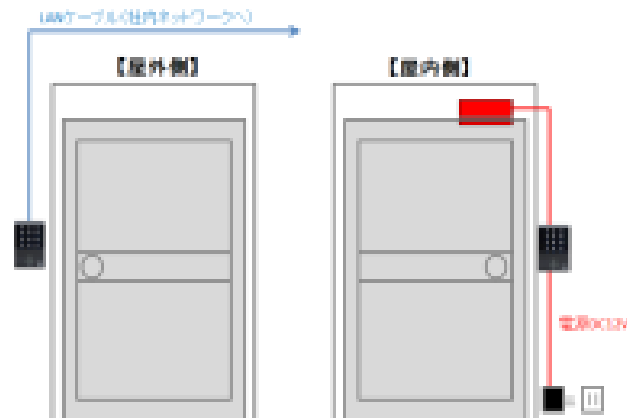


最小構成でiDoorsを設置します。必要な機器は

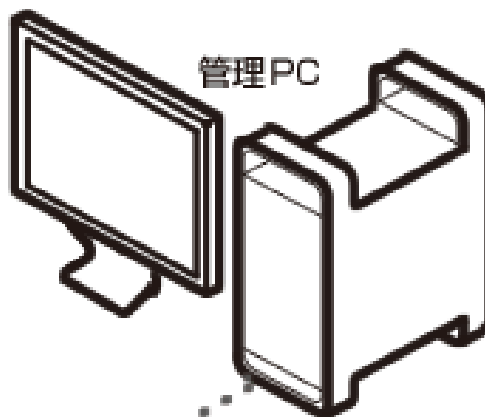
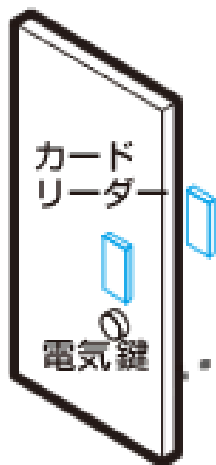
- ・iDoors Reader(2個)
- ・電気錠(1個)
- ・電源(1個)

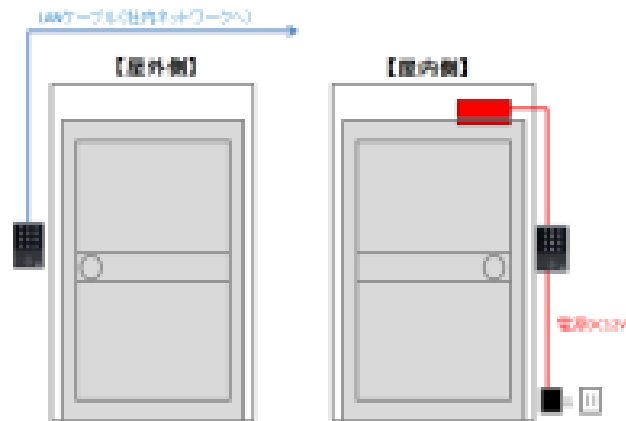


iDoors Readerは入室と退室の両履歴を管理するので、1ドアに対して2つ使用します。電気錠は安く仕上げるために外国製のマグネットロックを使用します。電源もACアダプターを利用して安く・簡単に。設置イメージは↓こんな感じになります。



無事に工事が完了しましたさあ、運用を開始しましょう。ACアダプターをコンセントに差してシステムを起動します！ iDoors ReaderのLEDが赤青同時点滅し、ピッピッという音を鳴らしながら立ち上がります。起動動作が完了するとLEDは消灯しスタンバイ完了です。まずは管理端末を決めましょう。





上図に「LANケーブル(社内ネットワークへ)」と書かれています。iDoors Readerから延びたLANケーブルは社内のハブに繋がっていると思ってください。つまり、社内ネットワークに接続された機器からいつでもiDoors Readerにアクセスできるというわけです。

社内PC(有線)でもiPadやiPhone(無線)でもなんでもOKです。とりあえず社長を管理者に、社長のPCを管理用端末にすることにしましょう。ウェブブラウザを開いてください。Internet ExplorerでもFirefoxでもChromeでもSafariでもなんでもOKです。

ウェブブラウザが立ち上がったら、アドレスバーにiDoors Readerに設定したIPアドレスを入力してください。(例:192.168.xxx.xxx) ※「http://～」と入力しているところに数字を入れればiDoors Readerにアクセスできます。ユーザー名とパスワードを入力してログインすれば準備完了！専用ソフトのインストールやPCの設定などは一切不要です。ネットサーフィンをするような感覚で入退室管理を行うことができます。

今は例として「社長を管理者、社長PCを管理端末」としましたが、どなたのPCでも管理端末として使用できます。もちろんログインするためのIDとパスワードを知らない人はiDoors Readerにはアクセスできません。

iDoorsが設置された出入口ドアはオートロック化されました。これでもう事務所が無施錠のまま無人になることはありません。

社員はそれぞれ自分専用のICカードを使って出入りをします。新たにICカードを買い揃えると費用がかかるので個人のSuicaやPASMOなどを会社の鍵として登録しました。新規登録も停止も抹消もウェブブラウザから簡単に設定できます。中にはおサイフケータイを鍵として登録している社員もいます。

来客者には来客者用ICカードを発行します。社長の留守中でも来客者がいつ来ていつ帰ったのかを自動的に記録していますので、いつでも確認することができます。

頻繁に訪れる出入り業者にはその人専用のICカードを発行します。日中の営業時間のみ入退室できるという入室できる日時の設定ができますので、夜間や休日は入れません。出入りの履歴も自動的に記録されます

社長は入退室履歴(アクセスログ)のチェックが日課になりました。iPhoneやiPadなどでもチェックできます。外出時間の長い社員や、営業時間外に出入りした記録のある社員にはすぐ声をかけて事情を聞きます。日常の小さなアクシデントも把握できるようになりました。



iDoors Central
アクセスログ

No.	ユーザーID	カード番号	建物名	日時	時刻	In/Out
1	1004(S)		雲山 大衆	2010/07/09	16:54:51	Out
2	80(S)		山田 拓也	2010/07/09	16:54:52	In
3	80(S)		山田 拓也	2010/07/09	16:54:53	Out
4	1004(S)		雲山 大衆	2010/07/09	16:54:53	In
5	80(S)		山田 拓也	2010/07/09	16:54:54	Out
6	1004(S)		雲山 大衆	2010/07/09	16:54:54	Out
7	1004(S)		雲山 大衆	2010/07/09	16:54:57	In

iDoors® アクセスログ



iDoors Manager
入退室ログ

ユーザー: [ALL] 日時: From [] To []

検索

30534 Record(s) Page: 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 Next End

名前	ドア	日時	In/Out	カ
雲山 大衆	正面玄関	2010/07/09(金) 16:55:01	Out	カ
山田 拓也	正面玄関	2010/07/09(金) 16:55:00	In	カ
雲山 大衆	正面玄関	2010/07/09(金) 16:54:59	In	カ
山田 拓也	正面玄関	2010/07/09(金) 16:54:59	Out	カ
雲山 大衆	正面玄関	2010/07/09(金) 16:54:58	Out	カ
山田 拓也	正面玄関	2010/07/09(金) 16:54:58	In	カ

iDoors® Manager アクセスログ



ユーザーの登録や削除は事務員さんが行うことにしました。事務員さんはオペレーターログオン権限でアクセスしているので、ユーザー情報の変更はできますが入室権限などの重要項目の設定はできないようになっています。

今までは合鍵を落とすとドアのシリンダーを交換して新しい鍵の合鍵を必要本数作成する必要がありました。

iDoorsにしてからはICカードを落としても登録ユーザーを停止するだけで済みます。損害も新しいICカード1枚分だけです。

ICカードを忘れても各個人専用のパスワードが設定できますのでテンキー操作で解錠することができます。個人専用パスワードなのでアクセスログには誰がパスワードで開けたのかという履歴が残ります。

従来のタイムカードの記録とiDoorsの履歴を照合することにより、より正確な勤怠管理を行うことができるようになりました。退社のタイムカードを押してから仕事をするサービス残業をさせていないかということも分かるようになりました。

アクセスログだけを確認することができる一般ユーザー権限を全社員に開放しました。全社員がアクセスログを確認することができるので、異常の発見までの時間が短縮されました。

また、全社員が監視員になりますので不心得者が出にくい環境になりました(社内統制)。

こうして導入前の問題点①～④は、

①、②ちょっとした用事などで時々無施錠のまま無人になる
→人がいようがいまいが常にオートロックで施錠できるようになった。

③営業時間外に社員が出入りしても気が付かない

→許可された社員だけが時間外に出入りできる。またその場合も入退室履歴が残る。

④取引先から個人情報管理状況を聞かれたが、どう回答して良いのか分からない

→「弊社ではこのように入退室を管理しております」と胸を張って言えるようになった。

⑤入退室管理システムに興味あるが、価格が高すぎて手が出ない

→シンプルで安価なシステムを導入することができた。将来の拡張にも対応できる柔軟なシステムで満足している。

